



おじゃまします

さかき新企業人インタビュー⑥

まえざわかずひこ  
前澤一彦さんプロフィール

フローラみゆき美幸園代表

昭和30年生まれ。上田千曲高校卒。子供の頃から花や自然が好きで、この仕事以外は考えられなかったという。盆栽にも興味を持ち、一時は盆栽の師匠について修業したことも。「1日水をやらないと枯れてしまう。花は生き物ですから」。365日休む間がないという前澤さんが、リタイアしたら奥様と二人、キャンピングカーで全国を旅するのが夢と語ってくれた。

物心がついたときから花と自然が大好き。「好きな花で仕事ができ、生活できるのは最高に幸せ」という前澤さん。今のよいうな卸中心の「お花屋さん」を始めたのは昭和60年、現在地に店舗を構えたのは平成12年。スーパーなどへの卸が約7割を占めるが、評判を聞いてお店を訪れるお客様も多い。店舗販売主体の真田支店もあり、小売の売り上げも堅調に伸びている。

「フローラみゆきを創業されたのはいつですか？」

「昭和60年です。生花や鉢物の卸売り販売を中心に始めました。現在でも約75%がスーパーやブライダル会場などへの卸販売です。小売を始めたのは平成12年、現在地に事務所を構えてから。真田に支店があり、そちらは小売中心です」

「この仕事を始められたきっかけはなんだったのですか。物心ついた頃から花が好きで、小学生のときには自分の花壇を作っていました。お

祭りのときは他の子供がおもちゃの屋台に群がっているのに、私は鉢植えが欲しい(笑)。学校を出てからも造園の仕事をしたり、盆栽の先生について勉強したり、花や植物に関わってきました」

「前澤さんを魅了する花の魅力とは何ですか。」

「一言でいうと、『包容力』でしょうか。地球上の生き物は植物がないと生きていけないでしょう。花や植物のすべてを包み込む優しさ、そんなところに魅せられるんです」

「好きな事を仕事にできるのはうらやましいですね。」

「好きこそ物の上手なれ、という気持ちでやっています。が、商売としてはそれなりに考えることも多いです。花屋も業態はいろいろです。小売だけでやっていける店はまずありません。そこで、集客もあり立地の良いスーパーやブライダル会場などへの卸業から始めたわけです。おかげ様でようやく軌道に乗り納入先も増えました。エリアは戸倉から軽井沢まで、国道18号線沿いを中心に展開しています」

「仕事上で良かったと思え

ることはありませんか。」

「買っていただいた鉢植えや観葉植物の元気がなくなったりと持つてこられるお客様がいらつしやいます。私は「入院」と言いますが、お預かりして元のように元気にしてお返しするときのお客様の笑顔を見るのがうれしいですね。最近では花の育て方を知らない花屋も多いんです。私は珍しい花が手に入ると必ず自分でも育てます。そうでなければお客様に説明できません。花を育てるのが自分の得意分野だと思っています。坂城町は「バラの町・さかき」として一生懸命に下地作りをしています。ですが、これからはそれを根付かせることが大切ですね。バラに限らずいろいろな花々が町が彩られたら素敵でしょう。そんな花の文化を根付かせるお手伝いもしたいですね」

「最後に信条をお聞かせください。」

「物事の重軽と緩急を判断して行動すること。切花は生き物です。花の命は短く、繊細で保存も難しい。お客様が求める最高のタイミングで最も良い状態の花をご提供するに早い決断が必要なのです」



好きというだけで才能だと思っ  
だからこそ頑張る、努力する